

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

百

日付 平成 21年 1月 16日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験10年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「バーン」「バシッ!」「バーン」「バシッ!」外部評価の朝の打ち合わせの最中に、気になる大きな音が、リビングルームの方から聞こえてきた。午前中は「動」、午後は「静」の生活リハビリを兼ねた、ビニールボールを使ったレクリエーション等をするので、皆さんの様子を見せて貰う為に音の方へ急いだ。このホーム唯一人の男性利用者のAさん、女性のBさんCさんには、今朝のレク担当の職員Dさんは、私達が吃驚(びっくり)する程の勢いのあるボールを投げる。しかし、この3人はハッパとばかり受け止めたり跳ね返したりしている。見ている私達の方がドキドキする程だ。職員Dさんは、他の利用者にはその人にあった、ふんわりとしたボールを送ったり、お喋りの交換やお互い名乗り合い等も交えながら、午前中の「動」の時間を楽しませてくれた。一人ひとりの力や意欲・その時の気分を十二分に知り尽くした職員だからこそ、そして、こういった場面を数多く積み重ねているからこそ、「これでもか」といった元気なやり取りが出来るのだろう。「あなたのお名前、何ですか?」のDさんの問いに「月形半平太じゃ」のAさん。笑いに包まれた朝のレク風景となっていた。

管理者は「何がどうあっても、とりあえず、『今』が楽しければ良い」と言う。EさんもFさんも私達を手招きして「まあ、ここへ座られえ」と招き入れ、延々と身の上話を聞かせてくれる。「ここに居てごらん。おもしろえよ。漫才しょうようなんよ」とか「ここは良い人ばかり居る。家族以上じゃ」等、このホームでの暮らしの様子を聞く前に教えてくれる。言葉が十分出ないGさんに対して隣の人は「この人の言葉は私にもよう判らん事があるけど、しっかり聞いたげてえな」と私に耳打ち。会話にならない人も、私達に暖かな歓迎の眼差しを送ってくれ、手を振って「いらっしゃい」と言ってくれる。

何と思ひやりに溢れた優しい人達だろう。何と人懐っこくて心暖まる人達だろう。私達は柔らかな日差しを背に受けながら、本当はここで延々とお喋りを続けていたと思った。そして、管理職の「今を楽しむ」の願いはしっかりと叶えられているのではないかと思った。勿論、今日のようなこんな穏やかな日常がある裏には、開設以来のスタッフの数々の努力がある。それらは個別の「ケース記録」その他の多くの記録から綿々と読み取る事が出来た。

特に改善の余地があると思われる点

ヒアリングの中からも記録の中からも「より良いケアへの意欲」は痛い程よく伝わって来る。職員会議録からも多くの意見交換の様子が伺われ、その努力の跡が多く見られる。諸事情で会議を持ち難い事も考慮に入れながら、このホームとして可能な方法で定期的な意見交換と情報伝達の場面を続ける努力をして欲しい。

又、会議録にもあるように「職員間で、小目標を設定しそれを評価し合うチャンスを設定する事」も継続していきたい。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…書副のこの山間の地に、この周辺地域の人達の為に福祉のゾーンを築きたいという、かつての町長の熱い思いを受けて設立された「グループホーム百」であるから、その理念を大切に受け継ぎ、ゾーンの一施設として地域によく貢献している。</p> <p>2、全体的に見て…グループホームは「家庭の暖かさ」と同時に、「集団生活でしか得られない利点」にもよく注目し、良いと思われる事は積極的に取り入れてみようとしている。勿論、本人の意志や希望は最優先されており、例えば生活を通してのリハビリ等も参加は自由。日中の殆どを居室で過したい人も居り、食事も皆と一緒になく独り居室で、という自由もある。このように、個々の意志を十分尊重しながらも、「今を楽しく」に繋がる働き掛けを職員が積極的に続けているホームである。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…職員で話し合った結果現在の所改善項目は無いと言う事であったが、日々の暮しの中ではそれぞれの気持が穏やかになる為の工夫や改良はその都度なされている。</p> <p>2、全体的に見て…玄関は勿論の事、特別な人を除いて居室からも自由に外に出られるという開放的な雰囲気のあるホームである。外を歩き回りたい人には職員がずっと付き添う事もあったと言う。「全員一斉に何かをする事」に拘らない自由さも、ここの雰囲気を特有のものにしているのだろう。利用者への言葉遣いへの配慮も会議録の中で反省として挙げられているが、利用者やスタッフの遠慮のない、自然体でのやり取りを私は好感を持って微笑ましく聞いた。家族のような、友達のような、こんな空気が良い場作りに貢献しているのではないだろうか。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…このホームの特に良いと思われる業務の一つが、個々の「ケース記録」と私は思う。この記録こそ、一人ひとりの力や経験を重視したケアを導く源であり、その人をより深く知り、共有出来る材料と思う。ひいてはプライバシー尊重にも繋がる。この業務を全職員が分担出来る工夫・改良を検討してみたい。こういった記録は、ケアへの気付きを増やし、ケアプランへも繋がり易いのではないかと。</p> <p>2、全体的に見て…Bさんが居室に帰ったと思ったら箒を手に玄関の方へ向かった。私はBさんの後を追ってこの人の働きぶりを見ていたら、Bさんは3回目の身の上話をしてくれた。子供の頃学校へも行けず、家政婦等で働きつめたので、今もこうしてお掃除は自分の仕事としてさせて貰っていると言う。なかなか厳しい状況の人生だったらしいが、ここでのBさんは明るく働き者。リハビリ体操でもリーダーとして生き生きしている。体も柔らかくまるで体操の先生のような感じだ。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…日頃の職員間のコミュニケーションや情報交換は出来ているが、定期的な職員会議が最近では不十分な事もあるので、これを改善しようとしている。これは是非復活させたいし、現在は計画にはないが家族への情報提供としての「たより」も、サービス向上の点からも、「ホームの歴史を残す」という意味からも検討していきたい。</p> <p>2、全体的に見て…入居当時からかなり長い期間帰宅願望が強く不穏な状態が続いてコミュニケーションも殆ど取れなかった人に対して、スタッフは粘り強く対応した様子がよく理解出来た。数ヶ月後にその人の口から「口では色々言うけど、腹ではよう判つとるよ」の言葉が聞けて涙が出る程嬉しかった、と今話す管理者の目元も滲んでいる。このように、一人ひとりに本当にじっくりと向き合って「あきらめないケア」「その人の本音をさぐるケア」に徹底している。その結果が今日の姿と思われるが、この日々の努力は「スタッフの生き甲斐・遣り甲斐」ともなっているようだ。</p>		